

工機械工学科闘争委員会アピール

全市大の戦斗的學生、院生、教職員のみならず、とりわけ、工学部に於いて、市大斗争を先進的に斗い続けている諸君に、機械工学科斗争委員会より、17日安保決戦に向けてのアピールを送りたいと思います。

10、21 国際反戦斗争は、首都東京に於いて、社共共斗、及び連以外の一切の示も、集会が禁止され、全国全共斗、反戦派労働者、戦斗的市民、高校生は、空前の大弾圧態勢下での非法的斗いを余儀なくされた。しかし、17日安保決戦幕明けとなったこの10、21斗争は、我々の斗いか、兵力によって承認された示も、集会を戦斗的に斗い取る段階から、兵力の弾圧をはねのけ非法斗争を大衆的に斗い抜くこと如出来たという、大きな飛躍を意味する。

わが機械工学科斗争委員会は、10、21斗争を基礎に、今まさに目前にせまう佐藤訪米実力阻止斗争を70年安保決戦として、プロレタリア、人民が、その段階を賭けて斗わねばならない決戦としてとらえ、全国の労働者、学生、市民と共に断固として斗い抜く決意である。

67年10、8 羽田斗争により切り拓かれた地平と、東大斗争、日大斗争を頂点とする68、69年生国争闘斗争の獲得した實を継承しつつ、兵力の厚い壁を打ち破り、我々と共に、過去の如何なる斗いをも大きく上回る斗いを展開しようではないか。

安保条約を實質的に改定し、沖縄の核基地を要とし、アジア人民への抑圧と侵略を許すのみそれとも、安保体制を粉砕し、本土、沖縄、アジアの人民を解放すべく、歴史を大きく前進させるのか。我々に課せられたこの歴史的選択は、11、13、17の5日間を如何に闘うのか。佐藤の訪米を阻止するのみ、許すのかにかかっている。それは単に、訪米抗議斗争を闘うというのではなく、現実佐藤訪米が、不可能になるような政治状況を創り出すこと。その為には、一人一人が、可能な全ゆる方法で、自からの、全存在を賭けて斗い抜くこと。鉄の団結と此の意志をもって、断固斗い抜こうではないか。

○ 首都東京に、総結集し、教闘の五日間(11、13、17)を死力を尽くして斗い抜け。

○ 佐藤訪米実力粉砕、70年安保決戦勝利を目指し狂瀾怒濤の進撃を開始せよ。

○ 首都を制圧し、羽田決戦に勝利せよ。

○ 安保粉砕、日帝打倒、沖縄斗争勝利。